

「対馬丸劇 平和の道しるべ」

1 学校名

宇検村立久志小学校

2 学年・人数

全児童（12人）、全職員（9人）

3 日時・場所

（1）学習会等の日時・場所

平成30年7月上旬～11月上旬 総合的な学習の時間（ビデオ視聴等）

（2）発表の日時・場所

平成30年11月4日（日） 9:00～11:30 久志小学校体育館

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

（1）名称・時代

・対馬丸慰霊碑（つしままるいれいひ）昭和時代

（2）特徴

太平洋戦争の1944（昭和19）年8月22日。対馬丸（6,754トン）の貨物船が沖縄から本土へ学童疎開者を輸送中、アメリカ海軍の潜水艦ボーフィン号によって魚雷攻撃を受け沈没。犠牲者数1,484名を出した。撃沈された対馬丸に乗船していた大人や疎開児童は、約1週間もの間、海を漂流し宇検村船越海岸に漂着した。生存者は21名、残念ながら101名の方が遺体として流れ着いた。流れ着いた生存者や遺体を宇検集落の方々が手厚く介抱したり埋葬したりしたことは地域として誇りであり、後世に語り継ぐに足る出来事である。

5 保存会や地域との連携の具体

当時、船越海岸に流れ着いた生存者を助けたり、遺体の処理にあたりたりした地域の方々に取材を行い、対馬丸劇の骨子を作成した。また、昨年度は、撃沈74年目にして対馬丸記念碑を建立し、沖縄県との本格的な平和教育の交流が始まっている。保存会では、学校での平和教育に活かしていくことを確認し、戦争のない平和な世の中を次世代につなげる象徴として慰霊碑を位置づけている。

6 活用の取組の工夫した点

対馬丸劇は、全校児童と全職員で取り組んだ。学習会と劇練習を合わせて計15回行った。対馬丸記念碑のレプリカを作成し対馬丸慰霊碑の存在を強調した。当時の雰囲気を出すために材料等の準備を自作で行った。また、配役では、一人何役もこなした。劇中に「ふるさと」「故郷の空」の歌を歌い、故郷や家族を思う当時の方々の心境を再現した。臨場感を出すために魚雷音や爆発音の音響や照明、ドライアイスで煙を再現するなどの工夫をした。劇の最後には校長による平和への願いが込められた授業場面が設定されており、対馬丸事件を決して忘れず二度と戦争を繰り返さない世の中を作ってい

くことを子どもたちに伝えた。幅広く平和の大切さを訴えるために新聞社にも来ていただいた。

7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

- ・ 対馬丸劇からは、校長先生をはじめとする諸先生方の並々ならぬ平和への思いが感じられました。低学年の子どもたちに平和学習は少し早いと思う部分もありましたが、郷土の先人たちの誇るべき慈愛の心などは幼い頃から語り継ぐべきですね。今後とも対馬丸学習をどうか続けてください。
- ・ 対馬丸劇のストーリーと職員，児童の演技力に感動しました。
- ・ 対馬丸劇では思わず涙しました。生命の大切さ平和の尊さ，子どもたちもきっと心にとめて成長するものと確信します。
- ・ 平和学習の一環，対馬丸劇が改めて心に残りよかったです。みんな一人一人が生き生きと一生懸命楽しくがんばっている姿に心を打たれました。
- ・ オール久志校の対馬丸劇は圧巻でした。機会があれば村民の皆様にも披露できるとよいと思います。
- ・ 最後の劇に大変感動しました。児童がたくさん出し物をこなしている姿に感動しました。対馬丸のいわれが理解できました。